

観光レクリエーションの現況

観光客の入込状況

本県の観光地を訪れた昭和61年度の観光客は約2314万人と推計され、前年度の2297万人に対し17万人増加した。本年度は海水浴シーズン中天候に恵まれなかったため、海水浴客が前年度に対し11%減少したが、一般観光客についてみれば、科学万博開催による相乗効果もあり、前年度に対し7%増加と順調な伸びをみせている。

これらの観光客のうち、日帰り客は全体の76%に当たる約1759万人(前年度1808万人)、宿泊客は全体の24%に当たる約555万人(前年度489万人)と推計される。

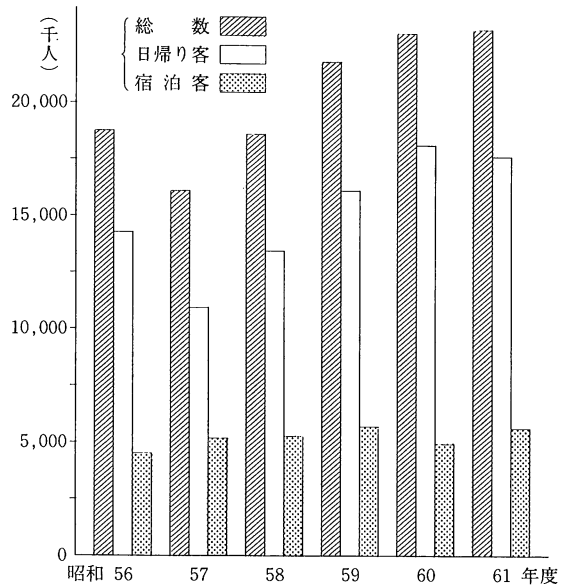
観光レクリエーション消費額

観光客の観光レクリエーションの消費額は、宿泊客1人当たり15,017円(前年度14,707円)、日帰り客1人当たり3,423円(前年度2,932円)となっており、61年度消費額は約1436億円(前年度1384億円)と推計される。

観光地域別の入込状況

地域別入込観光客数については、県南・県西地域が161.7%、筑波山周辺地域16.2%、北茨城・日立周辺地域15.9%、水戸周辺地域11.5%と前年度

図一 観光客の入込状況



に比べ増加した。減少した地域は、霞ヶ浦周辺地域が△10.0%、奥久慈周辺地域△9.4%、大洗・那珂湊海岸周辺地域△9.3%などである。

観光客の居住地別、交通機関別の入込状況

観光客を居住地別にみると、県外客が1164万人(全体の50%)、県内客が1150万人と推計される。

また、観光客の足については鉄道・定期バスが12%、貸切バスが14%で、残り74%が自家用車等を利用している。

これは近年の旅行形態が、家族やグループ等の

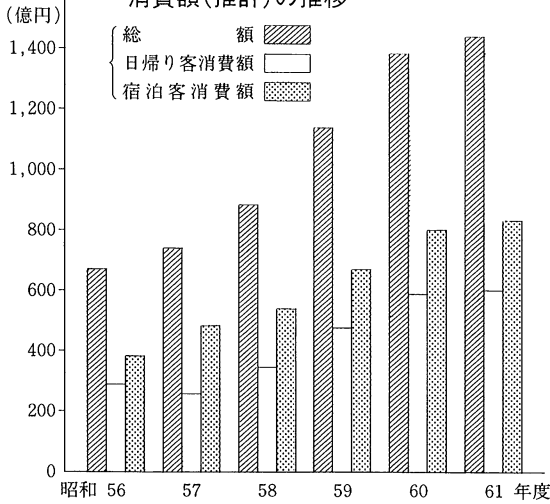
表一 観光客の推移

(単位：千人)

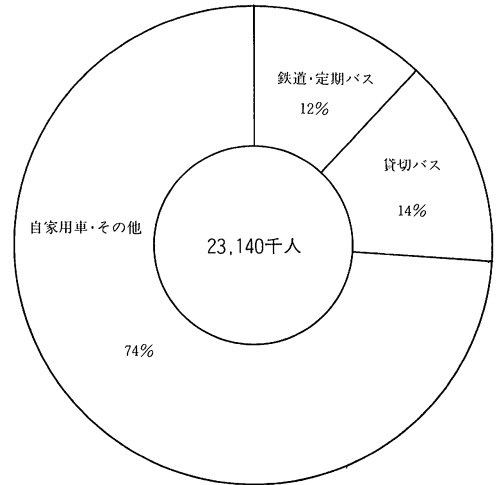
区分	昭和56年度	57	58	59	60	61
総数	18 775	16 062	18 607	21 782	22 971	23 140
日帰り客	14 269	10 922	13 397	16 119	18 079	17 586
宿泊客	4 506	5 140	5 210	5 663	4 892	5 554

昭和61年度観光客動態調査報告から

図一 2 観光レクリエーション消費額(推計)の推移



図一 3 利用交通機関別構成



表一 2 観光レクリエーション消費額(推計)の推移

(単位：億円)

区 分	昭和56年	57	58	59	60	61
総 額	671	735	879	1 139	1 384	1 436
日 帰 り 客 消 費 額	289	253	344	472	585	602
宿 泊 客 消 費 額	382	482	535	667	799	834

表一 3 観光客1人当たりの消費額

(単位：円)

区 分	昭和56年度	57	58	59	60	61
宿 泊 客	8 481	9 387	10 266	11 779	14 707	15 017
日 帰 り 客	2 023	2 314	2 566	2 927	2 932	3 423

表一 4 利用交通機関別入込観光客の推移

(単位：千人)

交通機関	昭和56年度	57	58	59	60	61
鉄道・定期バス	2 441	2 249	2 605	3 050	2 583	2 777
貸 切 バ ス	2 065	2 249	2 233	2 396	3 728	3 240
自 家 用 車	13 518					
そ の 他	751	11 564	13 769	16 336	16 660	17 124

表一五 居住地別入込観光客数

(単位：千人)

居住地	年度	昭和56年度	57	58	59	60	61
県外	昭和56年度	8 824	8 513	9 303	10 673	11 527	11 644
	計						
県内	昭和56年度	9 951	7 549	9 304	11 109	11 443	11 496

区分	北関東	南関東	北海道	東北	中部	近畿	中国	四国	九州・沖縄	外国	計
61年度県外客	4 877	5 641	35	674	243	99	19	23	22	11	11 644

表一六 海水浴客の推移

(単位：千人)

年度	昭和55年度	56	57	58	59	60	61
総数	2 441	6 053	3 069	6 186	8 876	8 052	7 149

表一七 年代別入込状況

(単位：千人)

年代別	10代以下	20代	30代	40代	50代以上	計
入込数	1 736	5 021	7 729	4 952	3 702	23 140

少人数による傾向になっていること及び常磐自動車道等の道路整備が進んでいることと関連しているものと思われる。

観光客の月別入込状況

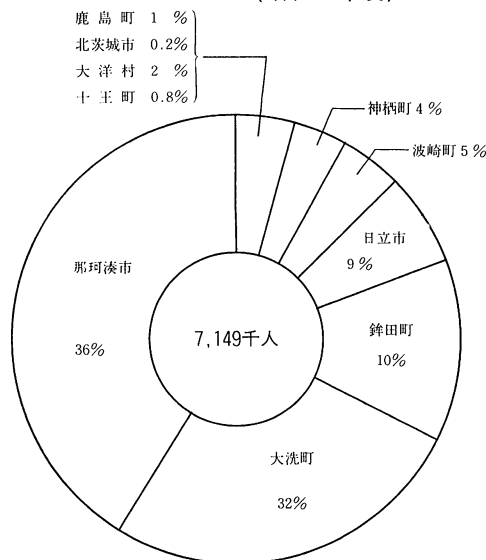
月別入込観光客数については、学校、職場などの夏休み等の休暇制度による余暇時間の増加に伴い、海水浴ができる7月、8月の夏季が多く、全体の37%を占めている。

海水浴客の推移

昭和61年度の海水浴客は天候不順の影響を受け、昭和60年度の805万人に対し11%減の715万人にとどまった。

また、海水浴場別にみると、知名度の高い海水

図一四 海水浴場別海水浴客構成比 (昭和61年度)



浴場を有する大洗町、那珂湊市で全体の68%を占めており、鉾田町の10%、日立市9%の順となっている。

表一八 観光地域別の入込観光客数と年次別推移

(単位：千人)

地域別	年次別	昭和56年度	57	58	59	60	61
水戸周辺地域		3 270	3 128	2 044	2 143	2 531	2 821
北茨城・日立周辺地域		1 711	1 222	1 566	2 132	2 498	2 894
奥久慈周辺地域		1 152	801	958	1 015	1 212	1 098
大洗・那珂湊海岸周辺地域		8 687	5 088	7 618	9 567	9 405	8 535
笠間・御前山周辺地域		3 477	2 798	3 694	3 964	3 907	3 942
筑波山周辺地域		2 452	2 544	2 833	2 852	2 485	2 888
霞ヶ浦周辺地域		2 184	2 194	2 441	2 708	3 317	2 985
県南・県西地域		377	366	314	311	253	662
計		23 310	18 141	21 468	24 692	25 608	25 825
純入込観光客数		18 775	18 062	18 607	21 782	22 971	23 140

図一五 月別観光客数（昭和61年度）

